素粒子・原子核・宇宙「京からポスト京に向けて」シンポジウム 2015/03/11 紀尾井フォーラム

# 課題2:大規模量子多体計算に よる核物性解明とその応用

#### 開発課題責任者: 東大理 大塚孝治

東京大学理学系研究科 附属原子核科学研究センター 清水則孝



阿部喬(東大理),岩田順敬(東大CNS),宇都野穰(JAEA), 江幡修一郎(北大MeMe),大塚孝治(東大理),角田直文(東大CNS), 角田佑介(東大理),富樫智章(東大CNS),本間道雄(会津大), 水崎高浩(専修大),吉田亨(東大CNS)

### HPCI戦略分野5課題2

#### 核力に忠実に、エキゾチック核まで含めた核構造の探求、予言

事業協力者リスト







### Neutron-rich Ni isotopes and shell evolution

pf-shell + g9/2, d5/2 orbits w/o truncation ... 5.1 x 10<sup>15</sup> M-scheme dim.





#### モンテカルロ殻模型による核変換研究

#### 宇都野穣さん、富樫智章さん講演

核変換:核廃棄物に含まれる長寿命核分裂生成物を 照射プロセスなどにより別の原子核に変換

その研究に必要な原子核の量子構造や反応に関する 基礎データの、現実的な核力と動的な相関を取り込ん だ計算が、最近可能になった

理論物理、アルゴリズム、計算機アーキテクチャの 3つの進歩が必要で、その組み合わせが実現 → 京コンピュータでの HPCI で原理実証研究 (重点課題として平成26年度に実施)

ポスト京では右図にあるような、重要な長寿命 核分裂生成物に関する精度の良いデータの 取得を目指す

(原理実証研究の成果)

右側にあるストロンチウム-90

研究の様々な局面に貢献が

期待される





素粒子・原子核・宇宙「京からポスト京に向けて」シンポジウム 2015/03/11 紀尾井フォーラム

# 原子核殻模型計算による E1励起の記述



宇都野穣(JAEA), 江幡修一郎(北大MeMe), 大塚孝治(東大理), 富樫智章(東大CNS),本間道雄(会津大),水崎高浩(専修大)

## Outline

- Lanczos 法による原子核殻模型計算コードの 開発
- ・原子核殻模型計算によるカルシウム同位体のE1励起

Nuclear shell model calculations

(Configuration Interaction approach)

- No-core shell-model calc.
  - Harmonic oscillator basis
  - Renormalization of shortrange repulsion



• Conventional shell-model calc.

Nucleons (protons and neutrons) as elementary particles

model space, effective interaction by perturbation



### モンテカルロ殻模型 vs 直接対角化計算

• 原子核殻模型計算 => 巨大次元疎行列の固有値問題



- ・ 従来型ランチョス法による対角化計算を高速に計算することも 同様に重要(10<sup>10</sup>次元以下)
  - 取扱いの簡便さ、高励起状態、高精度な波動関数、、、
  - 有効相互作用の検証には、大量の試行計算が必要
  - 並列計算コードを作成するにはDisk I/O、メモリー容量などに配慮が必要

ランチョス法による直接対角化計算とモンテカルロ殻模型



"計算可能ならば"、ランチョス法による直接対角化計算をした方がよい!

モンテカルロ殻模型を"支えている"直接対角化計算

## 大規模並列計算向け殻模型計算コード "KSHELL"

•  ${}^{50}$ Ca 3ħ $\omega$  calc. requires eigenvalue problem of ~10<sup>10</sup> dim.

=> parallel computation

- *M*-scheme + "on the fly" computation of Hamiltonian matrix elements ... similar to *MSHELL64*, but code was written from scratch for OpenMP+MPI hybrid parallel
- parallel in "partition", or Slater determinant is categorized by occupation numbers of singleparticle orbits
- ランチョスベクトルを各ノードで分 散配置することにより、大次元計 算を可能とした



実効性能(理論性能比)~3%

56Ni in pf殻 1回のランチョスiteration:: 25 分 (16cores) 🔿 3.8 秒 (7200cores)

<sup>50</sup>Ca 3ħωのGDR 計算 ... 50000ノード時間@FX10 (SPARC IX 16core)

#### Lanczos method in shell-model calc. <sup>56</sup>Ni shell-model calc. $10^9$ -dimension sparse matrix $\implies$ 4GB Lanczos vector 10 lowest eigenvalues ... 241 iterations -190 $\mathbf{E}$ (MeV) -195-196-197-195 -198Energy (MeV) -199-200-201-202-200 -203-204-205-206full Exp t = 0.1t = 2= 10Dimension 25 $25 \times 10^6$ $255 \times 10^6$ 771 × 10<sup>6</sup> 1.09 × 10<sup>9</sup> 1353 497805-205 Excitation energies of <sup>56</sup>Ni 100 200 Ref. M. Horoi et al. Phys. Rev. C73 061305R (2006) 0 # of iterations code "kshell" (N. Shimizu et al.)

9 sec/iteration @FX10 240 nodes (SPARC 64 IXfx, 3840 cores), total 35min.

## 殻模型計算コード"KSHELL"の開発

https://sites.google.com/a/cns.s.u-tokyo.ac.jp/kshell/

- 単体PCから、京計算機まで、同じ使い勝手を実現。
- OpenMP+MPI ハイブリッド並列、京およそ1000ノードまでの良好 な並列効率。
- 使いやすい対話型インターフェース。
  - 実験研究者にも使いやすく。
  - Ongoing: Sakurai-Sugiura法による状態密度の確率的計算 (筑波大 櫻井鉄也、二村保徳)
  - Lanczos restart 法の検討 (KEK 松古栄夫)



## Outline

 Lanczos 法による原子核殻模型計算コードの 開発

・原子核殻模型計算によるカルシウム同位体のE1励起



### 殻模型計算による48Caの光吸収断面積



### 殻模型計算による48Caの光吸収断面積











E1 excitation described by Monte Carlo shell model

Benchmark test

Lanczos calc. (exact) M-scheme dimension

<u>3,844,499</u>

Monte Carlo shell model (MCSM)

600 MCSM basis



<sup>18</sup>O with p-sd shell psdwbt int.

$$\left|\Psi\right\rangle = \sum_{k=1}^{N_{MCSM}} f_k P^{J,\pi} \left|\phi_k\right\rangle \quad \left|\phi_k\right\rangle = \prod_{\alpha=1}^{N} \left(\sum_{i=1}^{N_{sp}} c_i^{\dagger} D_{i\alpha}^{(k)}\right) - \right\rangle$$

モンテカルロ殻模型により、中重核領域の強度関数の取り扱いが可能になりつつある

## Summary

- ランチョス法による原子核殻模型計算コード "KSHELL" の 開発
  - PCから、1万コア程度までの良好な並列効率
  - 実験研究者にも使える対話型インタフェース

- ・ 殻模型計算によるカルシウム同位体のE1励起の微視的な 記述に成功。
  - 奇核も同精度で計算可能。
  - 中性子過剰側では、小さなピグミー共鳴(PDR)を予言。
  - E1演算子の既約行列要素を見ると、特定の一粒子軌道間の 遷移がPDRに寄与
- モンテカルロ 設模型を用い、中重核領域の核廃棄物(長寿命核分裂生成物)の計算へ。(明日の講演)